

令和2年度「第Ⅱ・Ⅲ期教員免許状更新講習【選択領域・18時間】」 「高め合う集団づくりをめざす体験活動の指導」

Ⅱ期 令和2年7月30日(木)～31日(金) ・Ⅲ期 令和2年11月21日(土)～22日(日)

【目的】 教育活動における**体験活動の意義**を理解するとともに、児童生徒が互いに**高め合う集団づくり**に資する指導を行う上で必要になることを理解し、**指導方法や安全管理の技能**を習得する。

- ・実習を通して**実感する**… 集団や個人に影響を与えるコミュニケーションのあり方を意識する。
- ・講義を通して**理解する**… 体験活動の目的と基となる考え方を、実習のアイスブレイク体験と照らして理解する。
- ・学びを**現場で生かす**… 新たな人やコトとの出会いを通して、「コレをやってみよう、できるかも」など、学校現場で生かす場をイメージする。

【参加者】 第Ⅱ期12名 第Ⅲ期14名(幼稚園・小学校・中学校・高等学校・総合支援学校等の教諭及び教育委員会職員)

【講師】 鈴木 邦治(福岡教育大学 教授)

新居 淳治(山口県教育庁地域連携教育推進室 主幹)

小林 真一(国立青少年教育振興機構 全国広域主幹兼研究センター研究員)

国立山口徳地青少年自然の家職員 市川正宏(次長), 日下部辰徳・中塚契(企画指導専門職), 片山伸二(企画指導班), 他

【1日目の内容】

【2日目の内容】

- 8:50 開講式
- 9:00(1) **実習**「学級開きや仲間づくりに活用できる体験活動の指導」
講師: 国立山口徳地青少年自然の家 企画指導専門職
- 10:00(2) **講義**「教育の現状と課題」
講師: 山口県教育庁地域連携教育推進室 主幹 新居 淳治
- 13:00(3) **実習**「グループで話し合っ課題を解決する体験活動の指導」
講師: 国立山口徳地青少年自然の家 企画指導専門職
- 15:10(4) **講義・実習**「野外活動における安全管理と野外炊事の技術」
講師: 国立青少年教育振興機構 参事 全国広域主幹 小林 真一
国立山口徳地青少年自然の家 次長・企画指導専門職
- 20:00(5) **講義・実習**「体験活動における振り返りの指導」
講師: 国立山口徳地青少年自然の家 企画指導専門職

- 8:30(6) **講義・実習**「体験活動の指導方法の考え方と技術」
講師: 国立青少年教育振興機構 参事 全国広域主幹 小林 真一
- 10:00(7) **講義**「体験活動の意義と教育課程への位置づけ」
講師: 福岡教育大学 教授 鈴木邦治
- 13:00(8) **実習**「グループワークの指導」
講師: 国立山口徳地青少年自然の家 企画指導専門職
- 17:00～ **履修認定試験**(筆記試験 60分)
- 18:00～ 閉講式

※Ⅱ期では、プログラムの順を一部入替えて実施

【実習 仲間づくりに活用できる・グループで話し合っ課題解決する体験活動】
アイスブレイクやグループワークの教育効果を体感し、現場での指導に生かす



アイスブレイク



課題解決 スパイダーパワー

【実習 振り返り、グループワークの指導】
体験活動を通して、グループの力が高まっていく過程と教育効果を体感し、現場での指導に生かす。



振り返り ビーイング



課題解決 バンパープランク

【講義から実習へ 野外活動における安全管理と野外炊事の技術】
安全管理の講義の後、実感を伴った野外炊事実習で、安全管理と指導技術を学ぶ。



講義:安全管理 小林先生



実習:野外炊事

【講義 教育の現状と課題】
地域教育力を生かしたコミュニティスクールの事例を通して、実社会で学ぶ体験活動について考える。



講義:現状と課題 藤井先生

【講義 体験活動の意義と教育課程】
講習のまとめとして教育課程の中で実施する様々な体験活動のねらいを考える。



講義:教育課程 鈴木先生

【講習の特徴】 本所の徳地アドベンチャー教育プログラム(グループワーク)を中心に**体験活動**を行う意義を理解し、その指導方法を学んでいく内容で構成した。また、多忙な先生方のニーズに合致するよう、**一泊二日の日程で選択領域全18時間**が受講できる構成とした。ねらいを「体験活動の手法を教育現場で生かす」とし、**実習と講義を交互**におこなうことにより、実感を伴った理解を基に指導技能が深められる講習を目指した。

講義では、**県内外で学校等の体験活動に関わっておられる先生方**に依頼し、現場の現状から教育課題を示し、その解決方法として体験活動の教育効果と必要性をご教示頂いている。

【成果と課題・今後の展望】 この構成にして4年目になるが、「実感できた」「実践したい」「18時間はありがたい」との感想を多くいただいていた。新学習指導要領に示された学び方と合致する点もあり、本講習の内容に興味関心や必要性を感じていただけたものと感じている。コロナ禍での開催であったが、他県や各校種からの幅広い参加があり、そのニーズが広がっている。次年度は、**各発達段階に応じた体験活動**の特徴について、より丁寧に取り上げていくことを検討する。

【受講後アンケートの記述より】

『1泊2日で18時間講習は助かる。「体験に勝るものなし」を実感した。(小学校)』『自分の興味関心のある分野について最新の情報が詳しく学べた。さらに詳しく学びたいと思った。(中学校)』『「これからがんばろう」という気持ちになれた。体験活動の指導は、苦手分野だと思っていたので大変勉強になった。少し積極的に、一歩踏み出せた2日間だった。(高校)』『今後の学校教育のあり方が問われる内容も多く参考になることばかりでした。他の先生との連帯感や信頼関係が生まれ、貴重な経験をさせていただきました。(高校)』『多くの方と情報共有できてよい2日間になりました。教員の変化(考え方)が必要だと感じました。』